

附中だより



令和4年9月27日発行

文責；附属中 萩原喜成

夏休み

夏休みとしては短めの1か月の夏休みでした。どんな夏休みを過ごしたでしょうか。夏休み前の全校集会（3年生は修学旅行中だったのでいませんでした）では、「自分の将来をじっくり見つめる機会にしてほしい」という話をしました。有意義な夏休みにできたでしょうか。将来のことを考えるような時間があったでしょうか。夏休みが明け、すぐに後期の教育実習がスタートし、桐龍祭に向けての取組が始まり、教育実習が終わったら休む間もなく前期期末テストとなりました。この後も、一息つく余裕もないまま、冬休みまで駆け抜けることになります。夏休みの成果が見られることを期待しています。

大会・コンクール

7月24日（日）の柔道競技から、今年度の中学校の県総体が始まりました。30日（土）の水泳・剣道・空手の各競技まで、1週間にわたって実施され、附属中もたくさんさんの競技に参加しました。短い練習時間の中で、各部ごとに効果的な練習方法を工夫しました。結果も大切ですが、これまで自分自身と向き合って努力したことや仲間と協力して高め合ったことがもっと重要です。みなさんはそこから何を学びましたか。そして、学んだことをこれからの生活の中でどう生かしますか。ぜひ、より豊かな学校生活につなげてください。8月上旬には、関東大会が行われ、陸上競技・柔道・体操・水泳の各種目に参加しました。さらに、下旬には全国大会が行われ、柔道・水泳の2種目に参加しました。体操は出場権を獲得しましたが、別の大会と日程が重なってしまったため、事前に辞退することにしました。



吹奏楽部は、7月23日に行われた県吹奏楽コンクールのB部門で金賞を受賞しました。惜しくも西関東大会出場は逃しましたが、心に響く素晴らしい演奏を披露しました。

10月には、1・2年生の初の公式試合である新人体育大会があります。先輩方から受け継いだものをきちんと出し切り、自分自身が納得できる試合にすることを願っています。

桐龍祭

9月9日（金）・10日（土）の2日間にわたり、



第52回桐龍祭が行われました。一昨年・昨年とコロナ禍での学園祭について、試行錯誤しながら実施方法を模索してきました。今年度は、その実績を生かして、

できるだけ以前の形に戻すことを心掛けまし

た。まだまだ同じようにはできませんが、3年生や生徒会役員の「附属中学校の伝統を途切れさせたくない」という強い思いがあったからです。特に、誰一人として在校生が経験していない「全校合唱」を復活させたいとの思いから、生徒会役員が中心となって、練習を進め、校庭での実施ではありましたが、全校合唱を復活することができました。今年度の桐龍祭は、来年の桐龍祭に向けての明確な方向性を示す素晴らしい桐龍祭となりました。



て、誰一人として在校生が経験していない「全校合唱」を復活させたいとの思いから、生徒会役員が中心となって、練習を進め、校庭での実施ではありましたが、全校合唱を復活することができました。今年度の桐龍祭は、来年の桐龍祭に向けての明確な



若桐講座

9月17日（土）には若桐講座が開かれました。この講座では、毎年、山梨大学の先生方が専門として研究している内容を中学生にわかりやすく講義していただきます。教育学部はもちろん、工学部、生命環境学部、医学部の先生方の講義を聴くチャンスがありますので、中学生にとっては自分の進路を決定するきっかけになるかもしれない大変貴重な機会です。

12回目を迎えた今年は、医学部の4人の先生と生命環境学部の1人の先生による5講座を開設しました。脳科学（記憶、脳の仕組み、睡眠・運動・食事との関連）や新型コロナウイルス、南極の環境など楽しく学ぶことができました。